

八尾市今昔建築地図



近鉄八尾駅周辺拡大

八尾の伝えたい建築「今昔編」



世界的な建築家、「黒川紀章」の建築！

ミキハウス 本社ビル

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」企画企画



国内外に直販店が100店舗以上出店する子供服のアパレルメーカーであるミキハウスの本社ビルです。

道路沿いの建物西面、半円状の傾斜したガラス面がとても印象的です。平成3年(1991年)竣工で、国内外にたくさんの建築を設計した建築家の黒川紀章氏(故人)の設計です。

黒川紀章氏は、国立民族学博物館、国立文楽劇場、国立新美術館、名古屋市立美術館、沖縄県庁舎、大阪府立国際会議場など誰もが知る建築をたくさん設計しています。また、国外でもヴァン・ゴッホ美術館新館(オランダ)、クアラルンプール新国際空港ターミナルビル(マレーシア)他世界各国の建築を数多く手がけています。



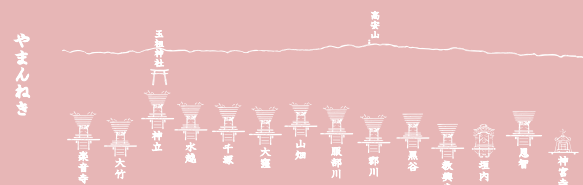
逆円錐状に傾斜したガラス面。その他の外壁面は、艶消しのバーナー仕上の花崗岩が平滑に貼られている。西日があたるとくっきりした外観が美しい。



地下ショールーム部分。中央部に待合があり、周囲にショールームがある。

ガラスの傾斜面の内部は吹き抜けになっている。ガラス面に陽があたると、光がアルミのパンチングメタルによって和らげていることがよく分かる。

八尾の伝えたい建築「今昔編」



まち研

天空にある神社の本殿は、築 300 年以上！

たまのおやじんじゃ ほんでん

玉祖神社 本殿



高安山(標高488m)の中腹の神立にあり、境内から眼下に市内が一望できます。この神社は、式内社で玉祖明神とか高安明神ともいわれています。旧高安郡11ヶ村の氏神にあたる神社です。710年(和銅3年)に、周防国の玉祖神社から分霊を勧請しました。現在の拝殿は、1725年(享保10年)の再建とされています。

本殿は、正面が一間(長さ約2.2m)、側面が三間(長さ約4.3m)の縦長の形で、切妻造の屋根が、建物本体の「身舎」から参拝する部分の「向拝」にまで伸びています。部分的に彩色が残っており、東側面には竹と虎が、向拝の天井には龍が描かれているなど、もとは色鮮やかな建物であったようです。この本殿は、棟札に記された「宝永三年(1706年)」の年号と、彫刻の形や建築様式から、宝永年間(1704～1710年)に建てられたと考えることができます。



参道の石段の横にあるクスノキは、幹周り8.5m樹高20m以上ある巨樹で、1970年(昭和45年)に大阪府天然記念物(市内に他に2本)に指定されています。



本殿は、江戸時代中期の建築様式を残し、市内において最も古い神社本殿のひとつで、地域の歴史を伝える貴重な建造物です。また、身舎と向拝の屋根が一体化した切妻造の本殿は、大阪府内でも珍しい形式です。

八尾の伝えたい建築「今昔編」



あち研

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画

楽音寺



大竹



神立



水越



千塚



大窪



郡川



毎年7月中旬の土・日曜日に、神社の鳥居で「ふとん太鼓」を担ぐお祭りが行われています。

えっ。なんで？ 東京都港区で文化財！

だいしんじ

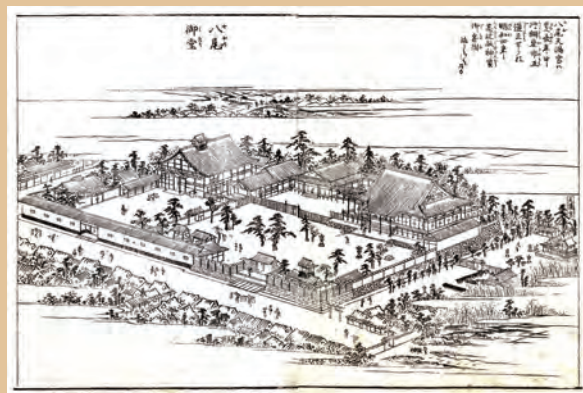
大信寺

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画



写真は、1923年(大正12年)頃



河内名所図会に描かれた大信寺
1801年(享和元年)

倒壊直後の大信寺1953年(昭和28年)



八尾寺内町の中心寺院である大信寺は、本願寺教如によって創建されました。大信寺の伽藍^{がらん}の構成や建物の様子は、河内名所図会に詳しく描かれています。伽藍^{がらん}には、右手奥の本堂のほか、太鼓楼や、成思庵という茶室、庫裏^{くり}、表門、長屋門など多くの建物で構成されていたことが分かります。本堂は、江戸時代の半ばを過ぎた1767年(明和4年)に再建されたものです。しかし、その本堂は、1788年(天明8年)の大火で焼けた京都の東本願寺に移築され、八尾に再び建てられたのは、およそ10年後の1799年(寛政11年)です。名所図会の刊行が1801年(享和元年)で、まさに本堂が再建された直後の姿を正確に描いたと考えられます。

1953年(昭和28年)、白アリの被害により本堂が倒壊したため、1967年(昭和42年)に、京都タワーの設計で知られる棚橋諒(たなはしりょう)氏の設計で鉄筋コンクリート造の本堂に再建されています。もとの木造の建物は、本堂が、東京都港区の善福寺に、ほぼそのまま移築され、港区の有形文化財に指定されています。また、表門と鐘楼も、三重県桑名市の桑名別院本統寺に移築されています。

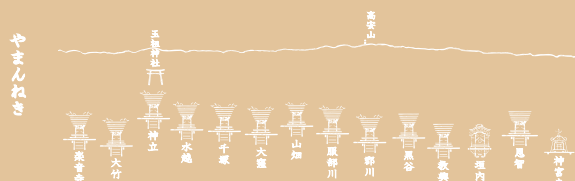


大信寺から移築され、東京都港区で文化財に指定されている 善福寺 本堂。
形が特徴的な元麻布ヒルズのフォレストタワーが背後にせまる。



現在の大信寺 本堂は、京都タワーの設計者である棚橋諒氏の設計です。

八尾の伝えたい建築「今昔編」



あし研

河内音頭、発祥の地！

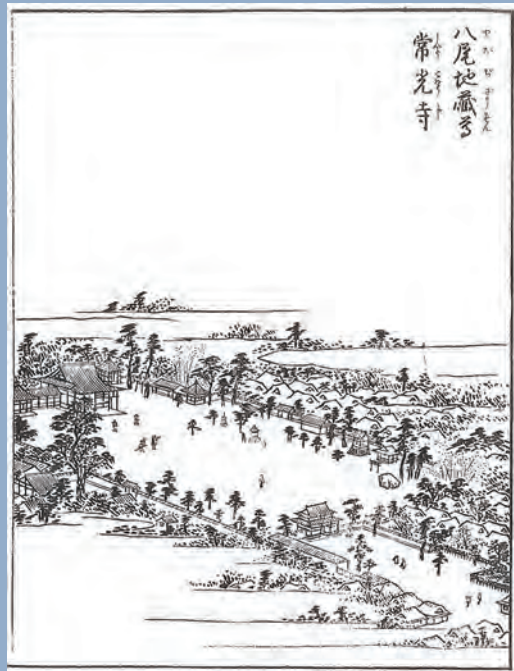
じょうこうじ
常光寺

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画



境内の全景 中央が本堂、左が阿弥陀堂、右が行者堂(旧舍利堂) (全て八尾市指定有形文化財)



河内名所図会(享和元年・1801年)に建物の配置や様子が描かれていて江戸時代と変わっていないことがうかがえます。
三門は、2重の屋根で描かれています。

創建は南北朝時代にさかのぼるとされ、江戸時代には、徳川幕府とつながりの深い以心崇伝が住持をつとめました。東より三門(楼門)を入ると、正面の本堂を中心に、その南に阿弥陀堂、北側に行者堂が配置されています。建物は、宝永大地震(1707年)のあと、阿弥陀堂は1772年(明和9年)に、本堂は1783年(安永9年)に再建されたようです。行者堂は、それらより少し前の宝永年間(1704～1710年)の建築だとされています。三門は現在は二階建てで上層のみに屋根をもつ「楼門」ですが、もとは二重の屋根をもつ「二重門」であったことが古絵図に描かれており、二重門の古材を利用して改築されたようです。河内名所図会(享和元年・1801年)に現在と同じ建物の配置や様子が描かれていて当時と変わっていないことがうかがえます。三門(楼門)は2010年(平成22年)に、本堂・阿弥陀堂・行者堂は2014年(平成26年)に、市指定有形文化財(建造物)に指定されました。

毎年、8月23日・24日の2日間河内音頭による盆踊りが行われています。「残したい"日本の音風景100選"」(環境省)に選定され、境内には「流し節正調河内音頭の発祥の地」の石碑があります。

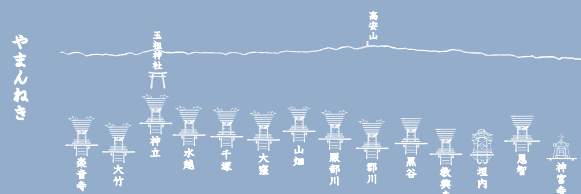


中央は、本堂で、左に阿弥陀堂。右に行者堂(旧舍利堂)八尾市指定有形文化財

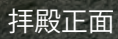


三門(楼門)八尾市指定有形文化財

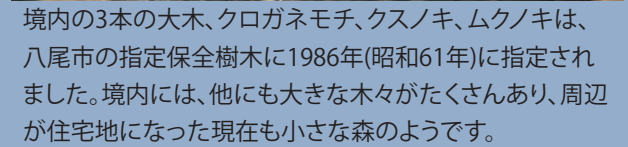
八尾の伝えたい建築「今昔編」



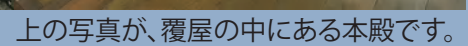
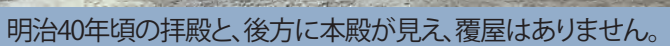
まち研



本殿は、1710年(宝永7年)に建築され、八尾市内最古の神社建築です。本殿は、風雨などから保護するため、覆屋とよばれる建物の中にあります。屋根は桧皮葺で、ひさしが曲線的に長くのびた形式で、正面が一間(約1.8m)の幅があるところから「一間社流造」と呼ばれています。拝殿も1711年(正徳元年)の建築と伝わっています。本殿は、2003年(平成15年)市指定文化財に指定されています。同じ頃つくられたと考えられる珍しい陶製と木製の対の狛犬も同時に市指定文化財に指定されています。



A photograph of a traditional Japanese building, likely a shrine or temple structure, featuring a dark tiled roof and white walls. A large, mature tree with dense green foliage stands prominently in the foreground on the left, casting shadows on the ground. The building is partially obscured by the tree and a large, rounded green bush in the lower right. The sky is clear and blue.



研

2つの中心商業施設！

リノアス (旧 西武百貨店 八尾店) と アリオ八尾

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画



写真は、LINOAS(リノアス)です。

服飾・本・飲食・食料品・文具雑貨・各種サービスなど 100 以上の専門店が入っています。



上の写真は、西武百貨店八尾店時の外観です。

下の写真は、開店時に1階の中央にあった大型水時計です。屋上には、ビアガーデンや屋上遊園があり、本物のフラミンゴもいました。

1978年に近鉄の高架化とともに、近鉄八尾駅が300m東に移り、新たな駅前の自由通路から直接アクセスできる商業施設として1981年(昭和56年)竣工し、西武百貨店八尾店と専門店を加えた西武八尾ショッピングセンターとして開店しました。規模は鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階 地下1階 40,030㎡(12,109坪)です。2006年(平成18年)に北側の隣接地で、コクヨ八尾工場(1961年～2004年)の跡地に、大型ショッピングセンター、アリオ八尾が開店し、2階から屋根付通路で直接アクセスできるようになりました。

西武百貨店は、36年間営業し、2017年(平成29年)2月に閉店しましたが、外観はほぼそのまま、半年後の2017年9月に複合商業施設 LINOAS(リノアス)として開業しました。



コクヨ工場跡地に、2006年(平成18年)に開業したアリオ八尾です。イトーヨーカドーと170以上のテナントが出店し、映画館(シネマコンプレックス)やショッピングモールや飲食店街もあります。外壁は、オープン当初のオレンジからブルーに変更されています。

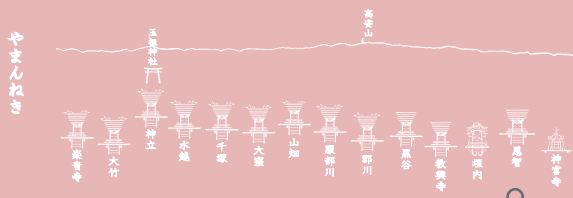


上の写真は、アリオ八尾建築以前のコクヨ八尾工場の西入口



1985年(昭和60年)の近鉄八尾駅周辺の航空写真。

八尾の伝えたい建築「今昔編」



あし研

失われた 明治建築、巨大煉瓦製糸工場

きゅうていこくせいしやおこうじょう

旧帝国製糸八尾工場 レンガ建築

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」企画企画



配電室・汽罐室正面（撚糸工場棟）



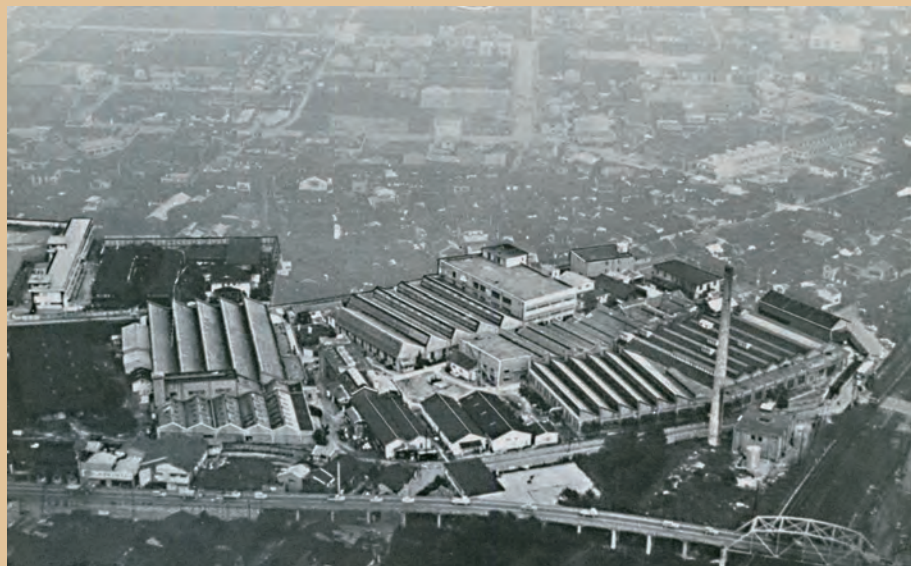
上のモノクロ写真は、作業時の工場内部の様子

JR八尾駅のすぐ北西に1000坪以上の広大な場所に、高い煙突、1897年(明治30年)建築の撚糸工場棟、明治40年から大正時代の建築である倉庫棟の赤レンガ造りなどの工場群、昭和の初期建築の洋館風の木造の事務所棟がありました。

1895年(明治28年)に日本カタン糸製糸工場としてつくられ、1907年(明治40年)、帝国製糸八尾工場となり、1943年(昭和18年)富士紡績の工場となりました。明治時代にレンガの工場建築を多く設計している建築家・茂庄五郎(しげしょうごろう)氏の設計によるものですが、1986年(昭和61年)に取り壊され、現在は、マンションが建っています。

右は、航空写真。▶

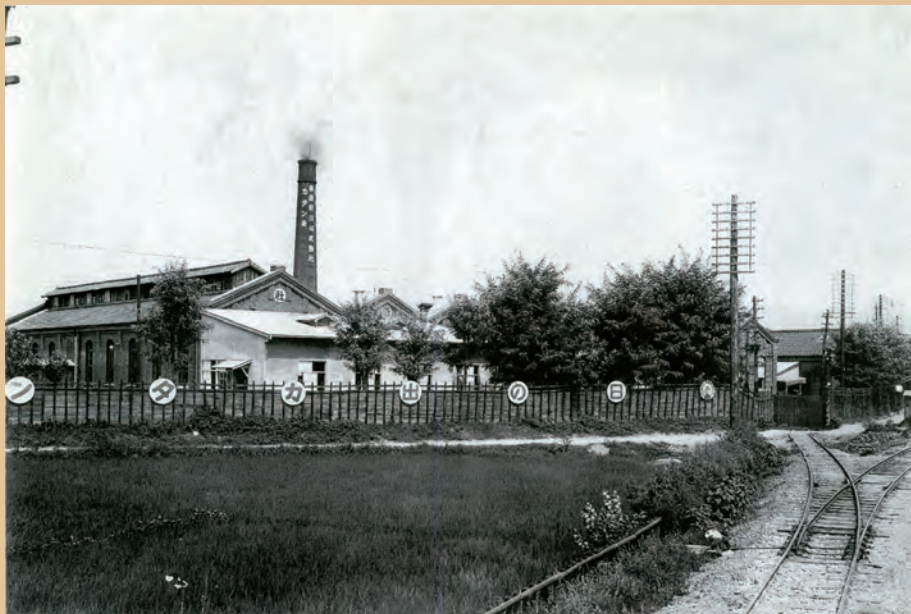
一番右側に、関西本線八尾駅。煙突の後ろが、撚糸工場棟。その右に倉庫棟。煙突を挟んで、その左に事務所棟がみえる。



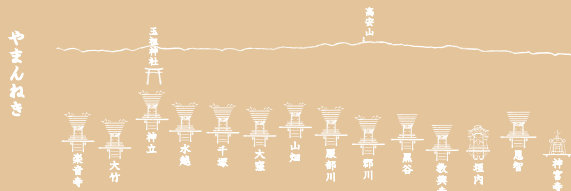
撚糸工場内部

右は、関西本線から全景を見たところ。▶

線路が左に分かれているのは引込線で、中央から左側に見えるのが撚糸工場棟です。



八尾の伝えたい建築「今昔編」



まち研

貴重な文化財と建築の宝庫！

慈願寺

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画



正面 本堂、右が経蔵(ともに国有形登録文化財)

2つの寺内町、久宝寺寺内町と八尾寺内町の成り立ちに深く関わる慈願寺は、この地域の歴史や文化を伝える貴重な資料をたくさん残しています。

慈願寺を開基したのは、信願房法心^{しんがんぼうほうしん}です。法心は親鸞聖人^{しんらんしょうにん}の関東での布教活動の際に帰依した人物で、親鸞聖人直弟24輩のうちの一人です。1280年(弘安3)に聖人の遺命より、法心によって久宝寺村に建てられた道場が慈願寺の始まりであると伝えられています。15世紀後半、本願寺第8代蓮如上人^{れんにょしょうにん}の時代には、その布教活動の先導役をつとめ、久宝寺寺内町の基礎をつくりました。1606年(慶長11年)、久宝寺寺内町の庄屋・年寄間の主導権争いが表面化し、その後、森本七郎兵衛ら七人衆と共に八尾の地に移りました。現在の本堂は、1814年(文化11年)の火災で焼失した後に再建されたもので、その他境内には、経蔵・鐘楼や築地塀などが残っており、真宗寺院の景観をよく伝えています。



経蔵(国有形登録文化財)



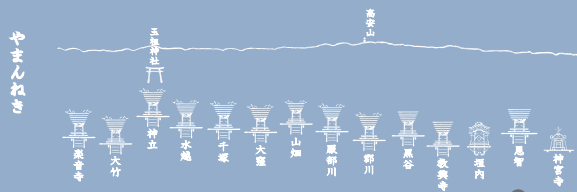
鐘楼(国有形登録文化財)



2006年(平成18年)に、本堂・経蔵・手水屋・鐘楼・表門(築地塀)・脇門・太鼓楼の7つの建造物が国登録有形文化財に指定されています。

中央-表門・築地塀
右-太鼓楼
左-鐘楼
(すべて国登録有形文化財)

八尾の伝えたい建築「今昔編」



まち研

市内で一番高い建築は、西日本最大のタワーマンション！

メガシティタワーズ

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画



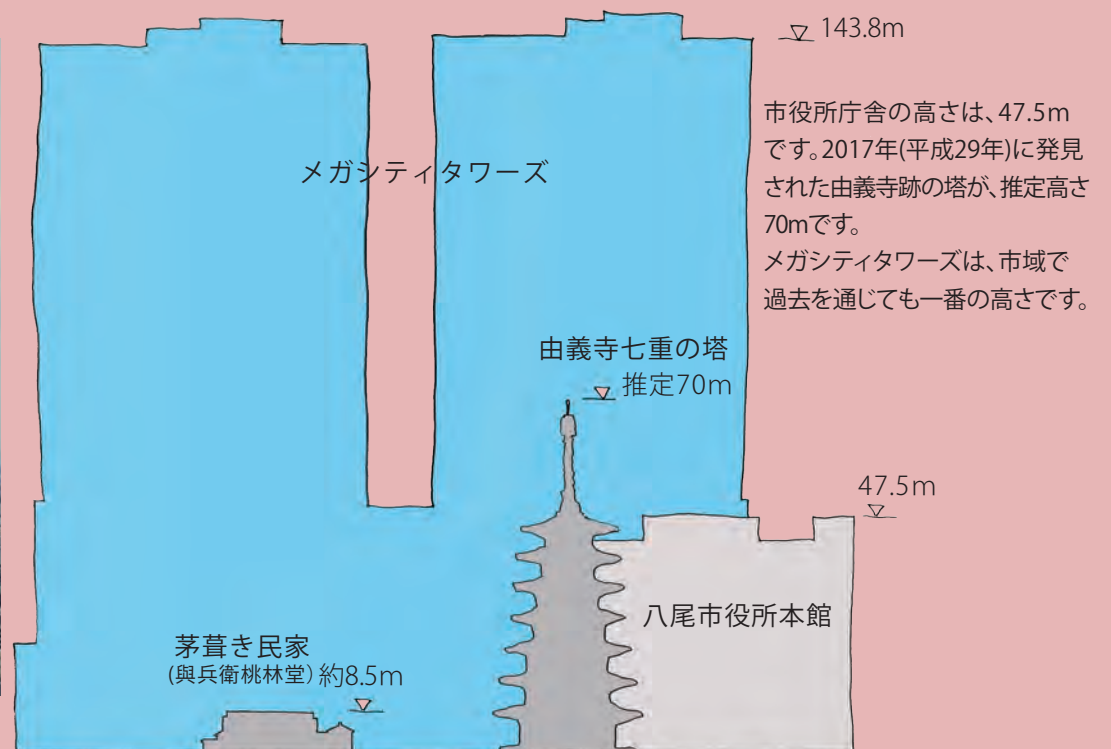
龍華操作場の航空写真
昭和20年代(1950年頃)の航空写真
東側(現JR八尾駅上空)より撮影
蒸気機関車や貨車がたくさん停車している
様子がわかる。

JR久宝寺駅南駅前にあり、下層部にスーパーなど商業施設が入るタワーマンションです。1997年(平成9年)からはじまった竜華操車場跡の再開発である大阪竜華都市拠点土地区画整理事業により2011年～2013年に竣工・完成しました。タワーズということでEASTとWESTと2棟の建築で1つの建物を構成しています。WESTが40階建てで2011年(平成23年)竣工、EASTが41階建てで2013年(平成25年)竣工となっています。

建築当時20階以上の集合住宅では、西日本最大規模で、住宅の戸数が1499戸です。高さは、143.8mで、もちろん市内で一番高い建物です

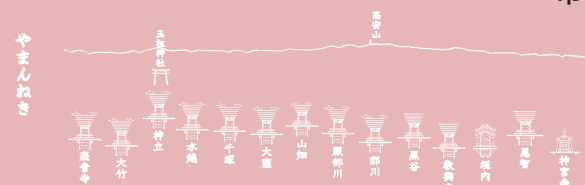


離れた少し高いところから見るとその高さが際立っています。
他市からもJR久宝寺駅前の場所がわかります。写真は、郡川の法蔵寺近くから撮影しています。



市内建築高さ比較

八尾の伝えたい建築「今昔編」



まち研

大阪 最大規模の木造建築！

けんしょうじ ほんどう

顕証寺 本堂

住生活月間 展示会

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「プリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画

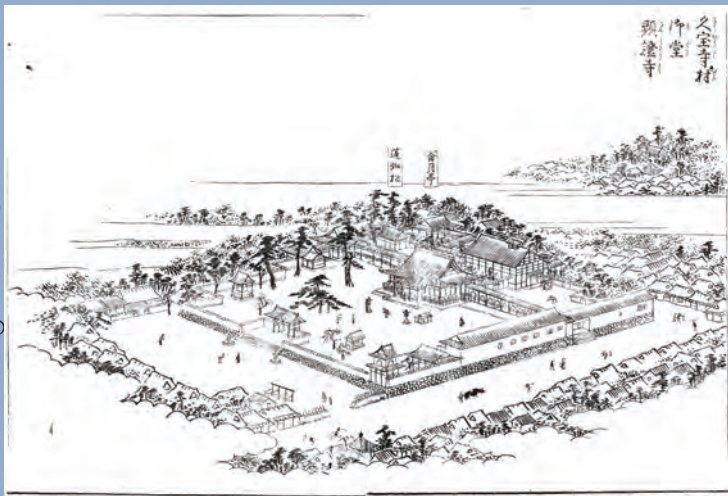


顕証寺本堂は、宝永4年(1707年)の大地震で倒壊した後、本願寺直系の大工により正徳6年(1716年)に再建されました。

本瓦葺の入母屋造で、大きさは
桁行十三間(33.68m)、
梁行十一間(32.20m)あり、市内最大の木造建築物で、大阪府内の真宗寺院でも最大規模を誇ります。近世以降の真宗寺院本堂特有の建て方で、
外陣は4本の太い円柱を用いて堂内の空間を広くとり、また梁の上は彩色や彫刻で装飾するなど、近世の建築技術を集約した優れた建物で、その後に建立された真宗寺院本堂の手本となっています。保存状態も良く、
庫裏、長屋門(北門)、西長屋門、東長屋門、
渡廊、鐘楼、表門及び脇築地塀、手水舎とともに大阪府指定文化財に指定されています。

▼ 河内名所図会(1801年)にえがかれた顕証寺

顕証寺は、1470年(文明2年)に蓮如上人がここに布教で訪れたことをきっかけとして、建てられました。この御坊を中心に周囲に二重の堀と土塀をめぐらし、街路は基盤の目のようになっていました。このようにして本願寺門徒衆は戦乱を防ぎ、門徒の団結をはかる寺内町をつくりました。寺内町では御坊が一切の支配権をもち、久宝寺城主安井氏がこの権を委されました。いわゆる中世末期浄土真宗本願寺派などの寺院の境内に発達した集落です。顕証寺は、真宗西本願寺別院で連枝の格式をもち、河内十二坊の総支配をつとめました。久宝寺寺内町にある浄土真宗本願寺派の寺院で久宝寺御坊とも呼ばれています。



顕証寺表門(大阪府指定文化財)

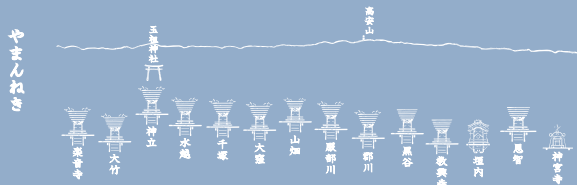
北側は、現在通用口になっている。長屋門と築地塀を兼用した「西長屋」があります。内側には本堂と「東長屋」をつなぐ「渡廊」があります。江戸時代中期の建造物として、当初の材や構造が残っており、東長屋の一部には、カマドのある台所であったことを示す痕跡が残されています。顕証寺の北側と西側の通りに面して東長屋、長屋門・附属西長屋が続き、寺内町の歴史的景観を残しています。

表門の棟梁は、1798年(寛政10年)に再建された摂津富田の寺内町の中核寺院で「富田御坊」と呼ばれる高槻市本照寺の表門と同じ大工であることから、相互の関連性がうかがえます。



顕証寺長屋門(大阪府指定文化財)

八尾の伝えたい建築「今昔編」



あし研

当時人口は、現在の1/4の6.5万人で、園風景がひろがっていました。市役所、八尾町の木造の小さな町役場を仮舎として使っていました。その3年後、つと新しい庁舎ができています。現存していませんが、当時の八尾市の公共建築を代表するものは、この市庁舎や民病院です。この時代、市内の建物は、ほとんどが木造でした。その中で鉄筋コンクリートの公共建築は、近代的なイメージの存在でした。

昭和23年 発足直後の八尾市役所入口前
中央 右から4人目 初代市長 脇田幾松氏

住生活月間 展示会 

令和7年度 個性豊かな住環境づくり事業
「ブリズムホールであなたのアートを輝かせよう!!」参画企画